

ムーンショット研究開発運用・評価指針案について（1）

趣旨

- 内閣府及び関係省庁は、**ムーンショット研究開発を推進するための運用や評価に関する指針**を策定。
- 同指針では、ムーンショット**目標決定・構想策定**、研究開発の実施、推進体制、評価方法等を規定。

事業の流れ

ムーンショット目標決定／研究開発構想策定

- ・総合科学技術・イノベーション会議（CSTI）が、「**ムーンショット目標**」を決定。
- ・関係省庁は、目標達成に向けた「**研究開発構想**」を策定。

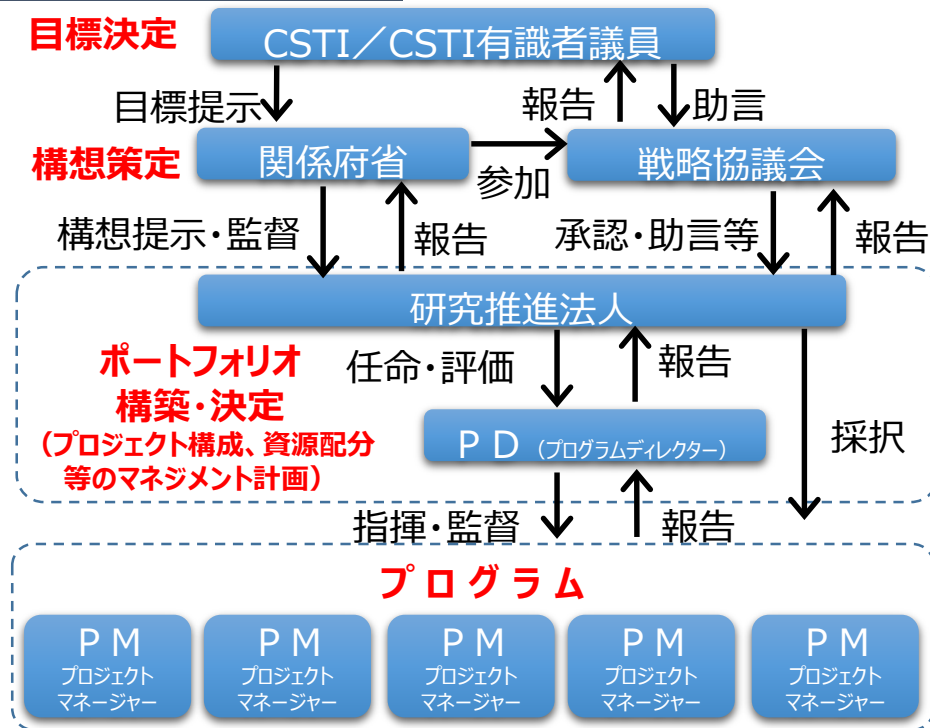
研究開発の実施 （PD任命／PM募集・採択等）

- ・研究推進法人が、**PDを任命、PMを募集・採択**
- ・PDは、目標を戦略的に達成するための**ポートフォリオ案**（プロジェクト構成、資源配分等をまとめたマネジメント計画）を構築（→**研究推進法人が最終決定**）
- ・PDの指揮の下、各PMが**プロジェクト計画書を策定した上で、研究開発を実施**

評価方法

- ・研究推進法人は、外部評価を、原則として、**3年目及び5年目、5年を超えて実施するものは、8年目及び10年目にも実施**。このほか、毎年、自己評価を実施。
- ・研究推進法人は、外部評価及び自己評価の結果を戦略協議会等に報告し、助言等を踏まえ、**プロジェクトの継続、変更、終了等を決定**。
- ・5年目に、CSTIが、**ムーンショット目標の継続・終了**を決定。
- ・研究推進法人は、毎年（外部評価の年を除く）、**自己評価を行い、各プロジェクトを改善**。

研究開発の推進体制



その他

- ・プロジェクトの対象経費は、①**研究開発**、②**プロジェクトマネジメント経費**とする。
- ・**知的財産**はバйдールを適用して、**研究開発機関の帰属を原則**（国外の場合は50%以上研究推進法人帰属）とする。
- ・研究データ基盤システムの活用を図るなど、**先進的なデータマネジメントを推進**。
- ・**利益相反**の扱いについては、PD/PM/研究開発機関の関係性を考慮し、**研究推進法人が適切に判断**する。

ムーンショット研究開発運用・評価指針案について（２）

PMの採択基準

研究推進法人は、PDと協議の上、国内外からPMを公募し、原則複数のPMを採択する。この際には、総合的な視点から採択できるようにするため、外部有識者による評価体制を構築し、外部有識者の意見を聴くものとする。PMの採択にあたっては、以下の点に留意する。

<PM採択の視点>

- 最先端の研究開発を推進するため、国内外の関連する研究者等の幅広い人的なネットワークや専門的な知識を有すること
- 最適な研究開発体制を構築し、進捗状況等に応じて機動的に体制を見直す等のマネジメント力、リーダーシップ力を有すること
- PMから提案されたプロジェクトの目標や内容（以下「提案内容」という。）が、従来のものと比べ、より大胆な発想に基づくものかつ挑戦的なものであり、将来の産業・社会に大きなインパクトが期待される革新的なものであること
- 提案内容の困難度は高いが、目標達成に向けた技術的なシナリオ（成功の仮説）を明確に説明できるものであること
- 提案内容が国内外を問わずトップレベルの研究開発力や知識、アイデアを結集するものであること 等

外部評価視点

外部評価は主に以下の視点によるものとし、本視点に基づき、各研究推進法人は、関係府省と連携して、詳細な評価基準を別に定めるものとする。

<プログラムに関する評価>

- MS目標達成等に向けたポートフォリオの妥当性
- MS目標達成等に向けたプログラムの研究開発の進捗状況
- MS目標達成等に向けたプログラムの研究開発の今後の見通し
- PDのマネジメントの状況（ポートフォリオ管理、PMへの指揮・監督、機動性・柔軟性等を含む）
- 産業界との連携・橋渡しの状況（民間資金の獲得状況（マッチング）、スピンアウトを含む）
- 国際連携による効果的かつ効率的な推進
- 大胆な発想に基づく挑戦的かつ革新的な取組
- 研究資金の効果的・効率的な活用（官民の役割分担及びステージゲートを含む）
- 研究推進法人のPD/PM等の活動に対する支援

<プロジェクトに関する評価>

- MS目標達成等に向けたプロジェクトの目標や内容の妥当性
- プロジェクトの目標に向けた進捗状況（特に国内外とも比較）
- プロジェクトの目標に向けた今後の見通し
- 研究開発体制の構築状況
- PMのプロジェクトマネジメントの状況（機動性・柔軟性等を含む）
- 研究データの保存、共有、公開の状況
- 産業界との連携・橋渡しの状況（民間資金の獲得状況（マッチング）、スピンアウトを含む）
- 国際連携による効果的かつ効率的な推進
- 大胆な発想に基づく挑戦的かつ革新的な取組
- 研究資金の効果的・効率的な活用（官民の役割分担及びステージゲートを含む）

ムーンショット研究開発運用・評価指針案について（3）

ステージゲート・評価の考え方

- 研究推進法人は、外部評価を、原則として、**3年目及び5年目に実施**。5年を超えて実施するプロジェクトは、**8年目及び10年目にも実施**。このほか、毎年、自己評価を実施。
- 研究推進法人は、外部評価及び自己評価の結果を戦略協議会等に報告し、助言等を踏まえ、**各プロジェクトの終了、変更、継続を決定**。
- 5年目に、CSTIが、**ムーンショット目標に向けた研究開発（プログラム）の継続・終了**を決定。

